

風のように

甘木教会



主任牧師：崔大凡

牧会委嘱牧師：竹田孝一

わたしは、既にそれを得たというわけではなく、既に完全な者となっているわけでもありません。何とかして捕らえようと努めているのです。自分がキリスト・イエスに捕らえられているからです。 フィリピ信徒の手紙3：12

もう一つのたとえを聞きなさい。ある家の主人がぶどう園を作り、垣を巡らし、その中に搾り場を掘り、見張りのやぐらを立て、これを農夫たちに貸して旅に出た。 マタイ21:33

【説教要旨】

更に、信仰に基づいてあなたがたがいけにえを献げ、礼拝を行う際に、たとえわたしの血が注がれるとしても、わたしは喜びます。あなたがた一同と共に喜びます。2:17

パウロは、ローマにより幽閉され、自分が殉教の死を前に愛するフィリピの信徒にどうしても伝えておきたいという思いで手紙を書いています。パウロはキリストを信じる者の人生、信仰の生活について、競技場を走るランナーにたとえます。

兄弟たち、わたし自身は既に捕らえたとは思っていません。なすべきことはただ一つ、後ろのものを忘れ、前のものに全身を向けつつ、神がキリスト・イエスによって上へ召して、お与えになる賞を得るために、目標を目指してひたすら走ることです。

3:13~14

若者ように語るパウロは、もう若くなく既に60歳を越えようとしていました。しかし、彼はランナーにたとえて走るというのである。彼は健康だったのだろうか。いや彼は病気をもっていました。

そのために思い上がることのないようにと、わたしの身に一つの

とげが与えられました。……………この使いについて、離れ去らせてくださるように、わたしは三度主に願いました。

パウロの病気をし、肉体は衰え、主に癒しを求めたがかえられない境遇にありましたが、しかし、パウロは、キリスト・イエスによって上へ召して、お与えになる賞を得るために、目標を目指してひたすら走るということです。キリスト・イエスによって上へ召して、与えられる賞とは？

しかし、わたしにとって有利であったこれらのことを、キリストのゆえに損失と見なすようになったのです。そればかりか、わたしの主キリスト・イエスを知ることのあまりのすばらしさに、今では他の一切を損失とみています。キリストのゆえに、わたしはすべてを失いましたが、それらを塵あくと見なしています。キリストを得、キリストの内にいる者と認められるためです。

私たちがすばらしいと思っていた家柄や、学歴や、経済的高さ、地位の高さでなく、キリストのすばらしさを知ること、これが天上において確実に与えられるということです。キリストのすばらしさ、キリストの愛を確実にするために彼は走りぬくということです。しかし、どうしても自分を支えるのは家柄や、学歴や、経済的高さ、地位の高さだと私たちは地上の論理の中に生きているゆえに、私たちはしばしば、パウロのようにキリストのゆえに、わたしはすべてを失いましたが、それらを塵あくと見なしていますという境地にはなれずにいる自分がいます。パウロは、こう言いながら、次のようにも言います。

わたしは、既にそれを得たというわけではなく、既に完全な者となっているわけでもありません。何とかして捕らえようと努めているのです。自分がキリスト・イエスに捕らえられているからです。

何とかして捕らえようと努めているとあっぷあっぷしている存在であるということです。しかし、こんな存在であってキリスト・イエスによって上へ召され、イエス・キリストによって与えられる賞を得る存在であるということです。自分がキリスト・イエスに捕らえられているからです。私たちが救われるためにキリ

ストを捕らえるのではなく、私たちがキリストに捕らえられているのです。これがキリストの御心だということです。浄土真宗いう「阿弥陀の本願」というものです。信仰というものです。信仰は、ここからの全てが始まることを私たちは、もう一度、生きるということの中で確かめたいのです。私たちのうち誰も、自分の力で生きることはできません。しかし、キリストがまず私たちに目をとめてくださっています。

私たちは、劇的に変化していく世界にあって翻弄されている中で、戦争は拡がり、私たちの世界は死と向かい合って、どう生きるかということが土台から揺り動かされている厳しい劇的時代を生きています。しかし、私たちには芯がある。

パウロは今や老いて、病気で、目的は行き詰まりにあった。それゆえ、わたしは弱さ、侮辱、窮乏、迫害、そして行き詰まりの状態にあっても、キリストのために満足しています。なぜなら、わたしは弱いときにこそ強いからです。Ⅱコリント12:10

キリスト・イエスに捕らえられているパウロは言い切ることができるのです。キリストに捕らえられている者とは、このようなものです。なぜなら、わたしは弱いときにこそ強いからです。

キリスト・イエスに捕らえられているゆえに後ろのものを忘れ、前のものに全身を向けつつ、走り生き抜けるのです。

大キャノン弓場司祭のお父さんは天に召されるとき、司祭に「キリストのどこでも掴んでおけ」と、そして、「キリストのどこでもいいから手を離すな。しかし、時々、手が緩むんじゃあ」と言われたそうです。「手が緩むんじゃあ」というとき、もう一つの手がお父さんを掴んでいてくださった。捕らえていてくださった。劇的変化の不安な日々の中にあって、キリストが見えなくなる時があるでしょうが、私たちが気づかなくても、キリスト・イエスに捕らえていてくださいます。だから私たちは明日へ向かって走って生きていくのです。これこそ、わたしの主キリスト・イエスを知ることのあまりのすばらしさキリストを知ることの喜びです。ここに共に立って、この劇的変化の厳しい時代を共にひびき合い走りぬいていきましょう。

牧師室の小窓からのぞいてみると

これでも何もおきていないのでしょうか。



印旛沼の堤が、想定を超える大雨で流れ込んできた水量の多さに耐えられずに決壊したという。

確実に地球の気候は変わってきている。それを想定外で片付けてよいのであろうか。想定できるものではなかったではないか。なぜ、それを想定外というだけで片付けるのだろうか。はっきりいうなら人間の欲望の膨らみが人間の良心と言う堤防を決壊させ、欲望が世にあふれ出ているからではないか。それは甚大な被害をもたらし、人を死に追いやっている。

「不法がはびこるので、多くの人の愛が冷えている」とイエス・キリストは終末に予言する。

これで何も起きていないのでしょうか。そう、終わりは近いと思います。だから、愛が冷えることなく、イエス・キリストに生かされ、自分を愛するように隣人を愛するという良心の堤防をさらに高くする時だと思う。



園長・瞑想？迷走記。

二人の息子に邪魔にならないように生きるということが老いの人生の目標である。よく育てられたと思う。成長させてくださるのは神だということは分かっているが、彼らをここまで安定させたのは家内の子育てだと思う。特に食である。手作りの食は豊かに日々、食卓を飾っていた。食が人を作っていくということを息子と家内の関係を通して経験している。家内は香川栄養大学を中退。「食をカロリー計算ではね。美味しいものを食べれば良いのよ。」ということで。幼児期には食が大切だと思う。だから、自園給食にこだわりたいのだが、色々な規制があり、人の課題もあり、前・大森幼稚園、現・日善幼稚園で、なかなか実現できないが、羽村幼稚園の自園給食は美味しい。

美味しいものを、心に自然に残る食卓を子どもたちと食べたいという夢を今も捨てきらない。

日毎の糧

聖書：万軍の神よ、立ち帰ってください。天から目を注いで御覧ください。このぶどうの木を顧みてください



詩篇 80:15



ルターの言葉から

み言葉によって、祈りによって、神の言葉は私たちの内に力強く働くのです。『マルティン・ルター日々のみことば』鍋谷堯爾編訳 いのちのことば社

この詩篇の歴史的背景は、王国分裂からマカベア時代にかけての歩みがある。王国分裂⇒統一イスラエルを過去のようにえがかれている。3 節から 722 年の北イスラエル滅亡を指していると思われる。18 節、19 節はヨシア王の宗教改革（622 年から）、あるいはヒゼキア王の宗教改革（716 年から 687 年）ではないかと。有力な説はヒゼキアの時代である。

文学形態は「民族の嘆きの歌」であり、「神よ、わたしたちを連れ帰り／御顔の光を輝かせ／わたしたちをお救いください。」（4 節、8 節、20 節）訴えと讃美がリフレシ、嘆きと再生の訴えが強調されている。80 篇の主題を集約している一句である。

「将来が見通しえない状況におかれている民の嘆きの詩篇として編まれた本詩には、これらの預言書に告げられている全イスラエルの復興の約束が祈りとして取り込まれているのである。」①

今の大変化していく時代にあって、将来の見通しえない日々を私たちは生きている。「神よ、わたしたちを連れ帰り／御顔の光を輝かせ／わたしたちをお救いください。」という嘆きと祈りは私たちの祈りでもある。そして、私たちは主イエス・キリストは、私たちの歩みー歴史の中に共にいてくださり目を注ぎ、嘆きの祈りは聞き届けてくださっています。だから、現実が嘆きの日々であって、たとえそうでなくても希望へと一步を踏み出せます。

引用文献：① 詩編の思想と信仰VI 月本照男 新教出版

祈り：嘆き多き時代でも神に救いを祈る人であり続けることが出来るようにさらにあなたに目を注ぐことができますように。アーメン。

甘木通信

神はすべてを時宜にかなうように造り、また、永遠を思う心を人に与えられる。それでもなお、神のなさる業を始めから終わりまで見極めることは許されていない。

コヘレト3章11節



「一通の電話」

「次の日曜日にお話をすればよいのですが、どうしても、先生にお話ししたくなりお電話をしました」と一通の電話がありました。小学校の先生をされていたUさんは、子どもたちの朝の集まりに「慈しみ深く」、給食前に「迷子のひつじは」メロディーを弾いていた。西洋音楽として子どもたちに聞かせていたという。60年ぶりに会った教え子らはもう70歳。話しをされているとき、それぞれの歩みの中で、それぞれに色々なドラマがあり、教会に導かれクリスチャンとされた方が数人おられたと聞きく。自分の小さなわがが教え子を助け、クリスチャンになったと思うとあの小さなわがが神様の御用が出来たと嬉しくなられ、このことを早く伝えたくて電話を私にしてくださった。

神はすべてを時宜にかなうように造り、また、永遠を思う心を人に与えられるというみ言葉の通りではないかと思った。

「時宜にかなうように造り」とは、人でなく、神であるということある。そして、「神のなさる業を始めから終わりまで見極めることは許されていない。」ということであり、これは神の私たちに与えられる隠された恵みではないだろうか。

私たちの人生が長ければ、ながいほど、苦しいこと、悲しいこともおいだろうが、私たちの思いを超えて私たちが見極めることが出来ないような出来事を起こしてくださることも真実だと思うようになった。

礼拝後、証しされ、私たちに勇気をくださった。

(甘木日記)土) 家内は熊本の女性会の集まり、私は入園説明会。夜に甘木。雷鳴。日) 早朝、雨。信徒さんの励ましの証しを聞く。月) 今日から水曜日まで、研修。木) 羽村幼稚園の事務仕事を終わり帰宅。金) 歩くと街路が留守中に秋の花に代わっている。一週間、神頼みの祈りばかり。

おまけ・牧師のぐち（続日記）牧師だって神さまの前でぐちります。
はぐちらない聖人（牧師）もいます。

土）家内は熊本に女性会集会に。「朝鮮飴を買ってきて」と一言。雨の中を幼稚園の説明会に7家族が来てくださる。幼稚園の良さを伝えていく。午後から大雨。主日の準備、役員会の準備。日）雨。おかげで秋の花は元気になってきた。礼拝後、信徒さんが60年ぶりに教え子らと会い（みなさん70歳代）そのとき人生の長い経験の中でキリスト出合い、洗礼を受けられていた生徒さんもおられて神さまに感謝したと証しをされた。みんなで大きな声で歌ったと喜びを伝えてくださった。役員会。この世の論理、組織を越えて、隣人と共に生き、隣人がいかされるために教会でありたいと力説した。聖書に忠実に生きてこそ教会ではないかと思うが一方的だったのでは猛反省している。この世の思いを遥かな神さまの恵みいかされていくことだと思ふ。月）始発の飛行機で東京に。幼稚園の管理者会議を終え途中の新宿に降りて、中村屋の高級のカレーを久しぶりに食べる。大学時代、高く食べられないでいたから、高級料理と今も思っている。最初に食べた時の感動は今も忘れられない。物価高か、薬味がおかわり自由だったのが30円取られる。名古屋の味噌煮込みうどんも漬物がおかわり自由がなくなった。時代が時代というところだろうか。しかし、両者、何度、食べても美味しい。薬味が自由にお代わりできないのが寂しい。

火）朝、新幹線で大阪、るうてる法人連合の総会、研修会。講師は来年、引退と聞いている。アメリカ留学前の青年時代のイメージしかないが、老人になった。今回は「創立の理念を次の世代に伝えるか」という主題。終了後、開店から知っていた店に久ぶりに顔出すと主人の足が悪くなっている。お互いに歳を取った。客は誰も来ず、開店の時の昔話などで楽しく過ごす。メールをチェックし返信。教会のホテルに泊。1995年阪神淡路大震災後に建て替え余儀なくされ、管財・財務員としてぺいぺいの時代に関り始めたから、土地を買い増し、2201年に完成みた。ビジネスホテルとしては部屋も広い。先輩方の手腕を委員会の度、報告を聞き、多くを学んだ。あれから25年か。先輩方も天に帰られた。水）久しぶりにピリピ書を読み、祈って朝は「るうてる法人会連合」の二日目に出席。午後から東京に引き返し、都私立幼稚園の「幼稚園・認定こども園におけるハラスメント対策」の研修会に出席。時代とともに幼稚園のかかえる課題は深くなっていく。木）羽村幼稚園



に行き、事務書類の整えをして、羽田に。帰宅し、報告書などを作り、メール送付。こういう時だからゆっくりと祈りが必要。風呂に入りながらゆっくりと祈る。自分を見直していく。独善的ではないか、言い訳をしていないか。悔いることばかり。金）日善幼稚園向かう街路に秋の花、ヤナギバルイラソウ、曼珠沙華が咲いていることに気づく。秋だ。避難訓練。修繕する所、新設置部分とお金のかかることばかり。でも、するしかない。教会役員会への報告書を作り、送付し、今日は終わり。落ち着け！